

近年の農産物産地に対する消費者の選択行動

半杭真一

(福島県農業総合センター)

Recent Changes in the Choice Behavior of Consumers to Production Centers of Agricultural Products

Shin-ichi HANGUI

(Fukushima Agricultural Technology Centre)

1 はじめに

(1) 背景と課題

近年、消費者の食への関心の高まりと、農産物産地の選択について国産への回帰が指摘されている^{2,3)}。

本稿の課題は、産地の選択における変化を消費者調査から捉え、個人特性を分析することによって、産地マーケティングに関する含意を得ることである。

(2) 食の関心は高まったか？

新聞や雑誌の記事における「食の安全」「食への関心」「地産地消」の3つのキーワードの出現頻度は、いずれも1998年に比べ2007年には10倍以上になっており(図1)、社会的な関心の高まりを示す。

2 試験方法

(1) 消費者調査の概要

分析には、福島県が県内全域を対象として2004年と2007年に行った調査のなかから20-69歳の男女のデータを用いる。福島県は消費地であると同時に生産地であるため、域内消費者の地元産農産物に対する意識を調査することができる。これらはパネル調査ではないが、同じ質問項目を含んでいるため、食への関心が高まっているなかでの2004年と2007年の2時点での比較が可能である。

(2) 分析方法

本稿では、年齢および性別というマーケティングを行う上でアクセスが容易である個人特性と産地との関係について、世代の影響をコレスポンデンス分析によって概観し、影響の大きさを離散選択モデルによって定量化する。産地の選択は、「あなたは農産物を購入

する際、どこの産地のものを購入していますか」という質問により分析する。選択肢は、「福島県産があれば福島県産を選ぶ([県産])」、「福島県産にはこだわらないが、国産を選ぶ([国産])」、「国内産、国外産を問わず、どこの産地でもこだわらずに購入する([こだわらない])」である。

3 試験結果及び考察

(1) 産地の選択行動の変化

2時点を比較すると、[国産]の選択割合が高まり、[こだわらない]が減少している(表1)。

(2) 産地選択と世代

コレスポンデンス分析によって、世代による効果を見ると、40代の変化が大きい(図2)。

(3) 世代の影響の定量化

個人特性を独立変数、産地を従属変数として、選択行動をモデル化する(表2)。年齢について高齢であるほど、性別について女性の場合、[県産]及び[国産]を選択する傾向にある。また、選択肢に順序を想定した順序ロジットモデルよりも順序を想定しない多項ロジットモデルのほうがAICから当てはまりがよいと判断されるため¹⁾、多項ロジットモデルの限界効果を評価すると、年齢の効果に変化はないが、男性が[国産]を選択する傾向が強まっている。

4 まとめ

近年、食への関心の高まりは急速に起こっている。

また、地元産を好む傾向は年齢について高齢であるほど、また、女性のほうが強い。加えて、近年の変化として男性の国産志向の強まりが挙げられる。

引用文献

- 1) 赤池弘次. 1999. 「AIC と MDL と BIC」『オペレーションズ・リサーチ』41(7): 375-378.
- 2) 農林水産省編. 2006. 食料・農業・農村白書 平成18年度.
- 3) Thilmany et al. 2008. Going local: exploring consumer behavior and motivations for direct food purchases. Amer. J. Agr. Econ. 90: 1303-1309.

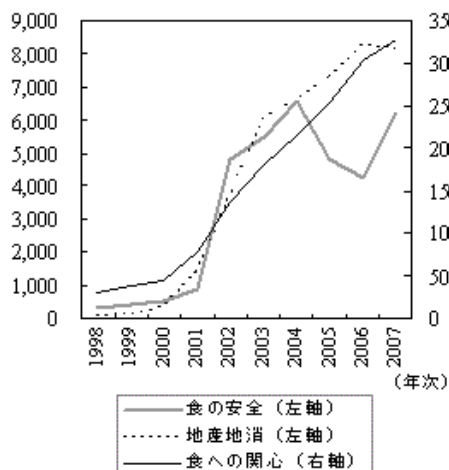


図1 マスメディアへの出現頻度 (件/年)

表1 産地の選択 (%)

選択肢	2004 年	2007 年
[県産]	32	32
[国産]	53	59
[こだわらない]	15	10

注：選択肢と調査年の間に有意水準 1%で差がある。

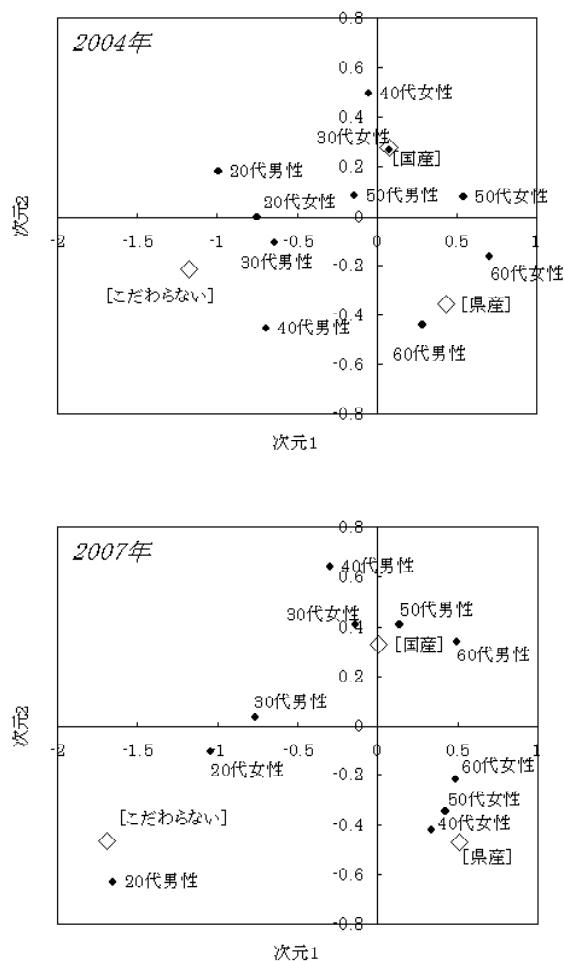


図2 コレスポンデンス分析結果
(上：2004 年、下：2007 年)

表2 離散選択モデルの推定値 (係数、括弧内は限界効果)

項目	多項ロジットモデル						順序ロジットモデル	
	2004 年			2007 年			2004 年	2007 年
	[県産]	[国産]	[こだわらない]	[県産]	[国産]	[こだわらない]		
年齢	0.270* (0.029*)	0.171* (-0.005)	(-0.024*)	0.423* (0.028*)	0.422* (-0.006)	(-0.022*)	0.162*	0.198*
性別	-0.938* (-0.042)	-0.924* (-0.064)	(0.107*)	-1.271* (-0.157*)	-0.601 (0.105*)	(0.052*)	-0.438*	-0.764*
定数	-0.422 (-0.220*)	0.731* (0.255*)	(-0.035)	-0.608 (-0.215*)	0.434 (0.220*)	(-0.005)	0.951*	1.456*
閾値							2.589*	3.259*
obs	721			554			721	554
対数尤度	-686.202			-467.436			-692.031	-472.999
AIC	1384.404			946.873			1392.063	953.998

注1：年齢は20-24歳を1、…、65-69歳を10としたスケール、性別は男性=1のダミー変数である。

2：係数及び限界効果について0との間に有意水準5%で差がある場合、*を付した。